

「2014年！干支づくし」

会期：2014年3月12日(水)～5月31日(土)

会場：本館常設展示場

出品目録

このたび当館常設展「高岡ものがたり」内において、展示コーナー「2014年！干支づくし」を開設いたします。本展示コーナーでは、馬が春の丘陵を疾駆する様子を表現した「銀製春郊遊牧文花盛器」（荒俣勝行氏蔵・当館寄託）をはじめ、今年の干支である午（馬）をテーマに選んだ収蔵資料を中心に展示します。

No.	資料名称	年代	点数	寸法	備考	所蔵者 (寄贈者名)
1	前田利家桶狭間凱旋図	幕末～明治初期	1	(本紙) 120.0×54.8	織田信長から追放中の利家が私的に参戦した、永禄3年(1560)桶狭間合戦の首取り図。首を三つ得たと伝えられるが、本図には五つ描かれている。 「槍の又左」の異名を持った加賀前田家初代・利家にあやかって、藩士の士気を鼓舞するために描かせたといわれる	当館 (大沢安三氏)
2	銀製春郊遊牧文花盛器	明治期	1	径50.0cm× 高65.0cm	彫金・小泉勝親(※1)、鍛金・黒川栄勝(※2)。水の流れや丘陵のうねり、馬や植物などはそれぞれ「鍛金(※3)」や「彫金(※4)」・「象嵌(※5)」で表現されている。資料背面には、小泉・黒川両名の銘が刻され、印や花押が象嵌されている	荒俣勝行氏 (当館寄託)
3	銅 前田利長騎馬像	昭和50年 (1975)	1	幅36.0×奥 行11.8×高 46.8	原型・米治一(※6)、铸造・北村俊之(※7)。粘土などで原型を作り、紙土や砂、鉄筋で作った鋳型を型焼きした後で成形する「焼型鋳造法」で制作されたもの	当館
4	引札「高岡市旅籠町 畠山商会」		1	25.2×36.2	「洋鐵金物商／土木建築鉄工品」。日本が赤く記された地球儀の上を、旭日旗(朝日を図案化した日本の旗。明治時代から第二次世界大戦終戦まで軍旗として使用)を背負った馬が駆ける様子が描かれる	当館蔵
5	全国の郷土土人形 (左より愛知三河土人形・気仙沼土人形・佐賀能古見土人形・長崎古賀土人形)		4	—	土を焼いて作られたもの。胡粉(貝殻の粉)を付け、泥絵の具(胡粉に色を混ぜてできた粉末状の絵の具)で彩色する	当館蔵

計5件8点

※1	小泉 勝親 〔生没年：嘉永6年(1853)～大正12年(1923)〕	茨城県水戸市出身の彫金・象嵌作家。水戸象嵌の萩谷勝平に学び、後に東京に出る。その後、明治33年(1900)に設立された日本金工協会の会長となる。
※2	黒川 栄勝 〔生没年：安政元年(1854)～大正6年(1917)〕	明治期の鍛金界屈指の作家。明治期に行われた内外の博覧会において活躍した。
※3	鍛金	金属を金鎚などで打ち成形する技法のこと。
※4	彫金	鑿で金属の表面を彫刻したり打ったりなどして模様を付ける技法のこと。
※5	象嵌	彫金技法の一種。金属の表面を鑿で削り、そこに別の金属をはめ込む技法のこと。
※6	米 治一 〔生没年：明治29年(1896)～昭和60年(1985)〕	高岡市横田町出身の彫刻家(原型師)。号は静雲。全国各地に建つ多くの銅像原型を手がけた。また陶芸や絵画にも秀でた。
※7	北村 俊之 〔昭和19年(1944)～ 〕	高岡市横田町出身の焼型鑄造作家。平成12年(2000)に日本伝統工芸士(高岡銅器・造形部門)に認定された。

※資料保存のため、一部展示替えをすることがあります。

凡例

- ・資料名は、原則として表題等の記載がある場合はこれを採用し、旧字は新字に改めた。
- ・寸法は、縦×横(cm)とし、複数資料は省略した。

公益財団法人高岡市民文化振興事業団 高岡市立博物館 (富山県高岡市古城1番5号)

TEL:0766-20-1572 FAX:0766-20-1570 <http://www.e-tmm.info>